

□新規 ■継続 □継続【一部新規】

要 望 事 項	津軽港の物流及び観光拠点化と鱒ヶ沢弘前間を結ぶ道路の整備について
---------	----------------------------------

要 望 先	国	
	県	県土整備部港湾空港課、道路課

要 望 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「津軽港」への港名変更の効果を最大限発揮した、津軽港の物流及び観光拠点化と利活用促進について ○ 津軽道をはじめとした、鱒ヶ沢町と弘前市を結ぶ道路の整備促進について
現 状 と 課 題 ・ 具 体 的 内 容 ・ 効 果 等	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年12月13日、七里長浜港から「津軽港」への港名変更がなされた効果を最大限発揮し、津軽港が津軽の玄関港として全国・世界から広く認知され、津軽地域全体の経済・産業の振興に寄与することが期待されており、必要な港湾機能の強化も望まれているところですが、平成30年度の南防波堤延伸工事完了以降、施設整備に関する具体的な計画が無い状態となっております。 ○ 陸上風力発電施設の部材や建設資材の取扱数量は増加傾向にありますが、津軽地域の基幹産業であるりんごをはじめとした農産物や食料加工品などの取扱品目の拡大による地域経済の活性化が望まれております。 ○ 自然豊かな津軽地域にふさわしい、地域特性を活かした産業である再生可能エネルギーに関しては、青森県沖日本海(北・南側)が令和2年7月に洋上風力発電事業の「有望な区域」に選定されるなど、津軽港周辺において洋上風力発電施設の導入検討が進められております。 ○ 東日本大震災の経験をふまえ、災害時のリスク分散及びバックアップ機能確保のため、県内の日本海側唯一の物流港湾である津軽港において物流拠点となる港湾機能の強化が望まれております。 ○ 現在は新型コロナウイルス感染症の影響により需要が落ち込んでいるものの、全国的にクルーズ船の寄港数が増加傾向にあり、津軽港においても来航可能なクルーズ船誘致による観光振興が望まれております。 ○ 津軽港と当市を含む津軽地域を結ぶ質の高い幹線道路である津軽自動車道は未だ開通しておらず、同港の物流基盤が脆弱な状況となっております。



[県産リンゴの輸出]



[港と津軽地域を結ぶ道路]

【具体的内容】

「津軽港」への港名変更の効果を最大限発揮し、物流及び観光の拠点となり得る港湾機能強化と寄港促進活動の実施

- 建設資材等の取扱数量増加や安定供給、津軽地域のりんごをはじめとした農産物等の取扱品目拡大へ向けた需要調査を行い、今後の円滑な物流確保や港湾機能の強化を実現するための次期整備計画の策定及びそれに基づく港湾施設の環境整備を実施していただくようお願いいたします。
- 洋上風力発電事業を契機として、津軽港がメンテナンス基地などとして利活用され、産業振興が図られるよう、必要となる港湾機能等についての調査を実施していただくようお願いいたします。
- 津軽港において、災害時のリスク分散及びバックアップ機能確保のための物流拠点となり得る、港湾機能の強化を進めていただくようお願いいたします。
- 物流及び人的交流拡大のため、「津軽港」という名称を活かしながらクルーズ船誘致活動をはじめとした効果的なポートセールス活動をしていただくようお願いいたします。



[飼料用米の保管・搬出]

質の高い幹線道路の整備

- 現在事業中の津軽自動車道によって鱒ヶ沢町と国道7号への陸路が整備されることにより、鱒ヶ沢（津軽港）・弘前・青森（青森港）における災害時等のリスク分散とバックアップ機能の確保につながるとともに、津軽港を利用した企業誘致の材料となり、また、津軽港を拠点に国内外と津軽地域を結ぶ、農産物などの物流ルートや観光周遊ルートの構築につながることから、本市と津軽港における物流に適した質の高い幹線道路の整備を早期に完成させていただきようお願いいたします。

【効果等】

- 港湾の多機能化及び強化が図られます。
 - ・ 建設資材等の安定供給や農作物など津軽地域産品の取扱品目拡大に対応した、港湾機能強化による港湾の利用促進
 - ・ 災害発生時の県内港湾施設のリスク分散、バックアップ機能の確保
 - ・ クルーズ船誘致による観光拠点化
- 津軽港を起点とした津軽地域の周遊及び走行性の向上と本市までの所要時間の短縮が図られます。
 - ・ 物流拠点としての利用促進
 - ・ 観光客の誘客促進
 - ・ 地域間交流の促進

津軽地域の豊かな産業構造の構築及び安定した住民生活の確保

<主な経過>

昭和59年2月	七里長浜港建設促進期成同盟会結成
平成8年5月	七里長浜港利用促進協議会設立
平成9年6月	七里長浜港供用開始
現在までの主な経過・参考事項	平成9年7月 外国客船「オルガサドフスカヤ号」初入港
	平成10年9月 大型クルーズ船「ふじ丸」「にっぽん丸」入港
	平成12年7月 外国貨物船「シルバーアロー号」初入港
	平成12年8月 七里長浜港における荷役業務に関する協定書調印・締結
	平成13年6月 中国産輸入砂第1船入港
	平成16年5月 七里長浜港船舶寄港助成金制度創設
	平成18年4月 「青森の港湾ビジョン」（国土交通省・青森県）策定
	平成21年8月 供用開始以降、初めて県産木材を国内出荷
	平成22年4月 七里長浜港港湾施設（野積場・上屋）の減免制度創設
	平成22年6月 供用開始以降、初めて輸出（県産木材を中国へ）
	平成23年12月 「青森県復興ビジョン」に「物流等のバックアップ機能の確保のために重要」として掲載
	平成26年度 青森県において「青森県建設資材等流通拡大調査検討」を実施
	平成28年度 新たな物流の可能性として、東北グリーンターミナル(株)が試験的に飼料米（約500トン）を搬出
	平成30年度 南防波堤の延伸工事完了（港湾地域再生基盤事業の終了） 七里長浜港における貨物取扱量実績が過去最高の256,455トンを記録（前年に比べて82,100トンの増）

	<p>令和元年度 「津軽港」へ港名変更</p> <p>津軽港における貨物取扱量実績のうち、陸上風力発電施設部材の取扱量実績が過去最高の13,874トン記録（前年に比べて1,929トンの増）</p>
--	--

担当部課：企画部企画課

<p style="text-align: center;">県の処理方針 （県土整備部 港湾空港課）</p>	
経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・津軽港の建設については、津軽地域の振興を図り、物資流通等に対応するため、昭和58年度から整備を進めている。 平成6年7月 北防波堤 410m 完成 平成8年11月 5千トン級（－7.5m）岸壁 130m 完成 平成9年7月 2千トン級（－5.5m）岸壁 100m 完成 平成11年12月 上屋完成 平成30年10月 南防波堤 1,180m 完成 ・津軽港利用促進協議会を中心としてポートセールスを進めている。 平成8年5月 七里長浜港利用促進協議会設立 平成15年7月 青森県七里長浜港利用促進議員連盟設立 平成23年 七里長浜港における取扱貨物量が107,127 トン 平成26年 七里長浜港における取扱貨物量が159,449 トン 平成26年度 「青森県建設資材等流通拡大調査検討」を実施 平成27年 七里長浜港における取扱貨物量が229,905 トン 平成28年 七里長浜港における取扱貨物量が181,651 トン 平成29年 七里長浜港における取扱貨物量が171,895 トン 平成30年 七里長浜港における取扱貨物量が220,063 トン 令和元年12月 津軽港へ港名変更 令和元年 津軽港における取扱貨物量が199,895 トン 令和2年 津軽港における取扱貨物量が177,777 トン
処理方針	<p>整備を進めていました南防波堤も完成し、港内静穏度の向上が図られたところで</p> <p>す。</p> <p>新たな施設の整備計画については、取扱貨物量の推計などその必要性を立証するための根拠を厳しく整理することが求められていることから、港湾利用者の要請、物流需要、経済社会の情勢等を見極めながら対応を検討してまいります。</p> <p>また、利用促進については、津軽地域の振興を図る上で重要課題と認識しています。引き続き、石灰石や砂利・砂等の建設資材などの取扱貨物の利用実績の向上及び来航可能なクルーズ船の誘致に向け、津軽港利用促進協議会等と連携を図りながら、ポートセールスに努めてまいります。</p>

県の処理方針

(県土整備部 道路課)

経緯	<p>1) 弘前鱒ヶ沢線 (弘前市堂ヶ沢) L = 200m H13 完成 (弘前市独狐) L = 1,100m H12 完成 (鱒ヶ沢町南浮田町) L = 510m H20 完成 (うち上鳴沢橋 L = 41.4m)</p> <p>2) 国道7号 (弘前バイパス) L = 10.16km S52 全線暫定供用 H22 4車線化完</p> <p>3) 津軽自動車道 (浪岡五所川原道路) L = 15.7km H 5～ 直轄代行 H14～ 一部供用開始L=8.1km H19 供用開始L=7.6km (五所川原西バイパス) L=3.8km H26 供用 (鱒ヶ沢道路) L=3.7km H31 供用 (柏浮田道路) L=12.3km H30 事業着手 R3 当初:4.00 億円(R2 当初:3.85 億円)</p>
処理方針	<p>鱒ヶ沢町(津軽港)と弘前市を連結する道路網としては、県道弘前鱒ヶ沢線、津軽自動車道、国道339号、国道7号等があります。</p> <p>ご要望の鱒ヶ沢から弘前間を結ぶ規格の高い道路の整備については、津軽自動車道の浪岡五所川原道路、五所川原西バイパスが供用済であるほか、「鱒ヶ沢道路」が平成31年3月に供用されております。</p> <p>また、平成30年度に直轄事業で着手された柏浮田道路は、今年度、国において、道路設計や用地調査、用地買収が行われており、県においても昨年度つがる市とともに設置した事業用地の先行取得を進める専従部署により、今年7月29日、30日に地権者に対する個別説明会を開催し、用地の契約を進めております。また、国からは、昨年度取得した一部の事業用地において、8月に軟弱地盤の改良工事を発注し、収穫後には工事に着手する見込みであると聞いております。</p> <p>今後も地元の皆様と一体となって、用地取得に関する国への協力等に取り組みながら、柏浮田道路の一日でも早い供用について、国に働きかけて参ります。</p>